

# いなづま

題字 小寺寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合  
 編集総務部  
 住所 函館市日乃出町7番22号  
 印刷所 有限会社 嶋山印刷



第47回通常総代会



## 就任ごあいさつ

理事長

吉田 要

ご挨拶にさきだちまして去る二月に逝去された前理事長故大倉伸夫氏の永年に亘る輝かしいご功績に対しまして、深甚なる謝意と心からなる追悼の意を表するものでございます。又その折りの合同葬には組合員の皆様より数々の御厚情を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

故大倉理事長逝去後の三月十日の役員会におきまして理事長に指名をされました。もとより浅学非才、到底その器ではありませんが、永年に亘り故理事長を補佐して参りました事もあり、止むなくお引き受けを致しました。責任の重大さを痛感致しております。残任期間一年でございますが組合員皆様のお力添えを宣しくお願い申し上げます。

過日の第四七回総代会でも申し述べましたが昨年度は景気の低迷により組合員の皆様には必ずしもよい年ではなかつたと推察いたしますが、当組合におきましては前年度を上廻る好決算を計上し、これ又前年度を上廻る『利用分量配当』も出来る事となりました。これらは北電工事工量の改訂、住宅電気保修センターの順調な運営、その他全道段階での各種事業の推進による助成等による処が大きい訳であります。

北海道電力㈱の深いご理解と組合員皆様のご協力に

対し感謝を申し上げる次第でございます。

平成七年は異常なる円高と、阪神大震災の影響等で国内経済・景気の先行はまことに不透明で苦難の年になりそうですが、この中で組合の新年度予算編成につきましては諸般の情勢に鑑み、前期に比べ収入微増・支出削減と言う厳しい編成でのぞむ事と致しました。何とか最大の努力を傾注し適正な運営と、来期も『利用分量配当』の出来る様頑張るつもりでございます。

次に事業計画につきましては、ほぼ例年並みの事業項目であります。特に全日電工連の『国民年金基金の加入促進』につきましては、一昨年来大変なご支援を頂いておりますが、特に全日電工連の『国民年金基金の加入促進』につきましては、一昨年来大変なご支援を頂いておりますが、特に全日電工連の『国民年金基金の加入促進』につきましては、一昨年来大変なご支援を頂いておりますが、特に全日電工連の『国民年金基金の加入促進』につきましては、一昨年末順調に推移しておられます。併せて近年低圧活線作業中の死傷事故が多発しておりますので『無墜落昇降柱法』と共に一層の作業安全の徹底をお願い申し上げます。

バブル崩壊以来、私共業界の工事量が年々減少して参りまして経営を圧迫しておりますが苦境の年にあっても頼るべきは自らの企業であり業界であると考えます。困難があつても共に抜けあい自力で道を開いてゆけば暗雲の中にも明るい展望が開けるものと思います。お互いに情報交換を密にして辛抱強く企業努力を続けた時ではないかと考えるものであります。

平素何かと御指導を頂いております関係諸官庁はじめ北海道電力㈱・財北海道電気保安協会・資材関係各社ほか関係各位の一層のご指導をお願い申しあげると共に組合員皆様の無事故、御健勝と企業の益々のご繁栄を祈念いたしましてご挨拶といたします。

## 役員会だより

### 臨時役員会

七・二・七

### 一、故大倉理事長葬儀について

七・二・一六

### 二、香典ならびに供花について

七・二・一六

### 三、各支部からの香典、供花について

七・二・一六

### 四、組合で負担する葬儀費用

七・二・一六

### 五、退職役員に対する記念品代について

七・二・一六

### 第九回役員会

七・二・一六

### 一、慶弔報告

七・二・一六

### 二、貸付報告

七・二・一六

### 三、各支部報告並提案事項

七・二・一六

### 四、総務委員会事項

七・二・一六

### 五、定期健康診断の実施について

七・二・一六

### 六、組合脱退申込みについて

七・二・一六

### 七、技術委員会事項

七・二・一六

### 八、建設業法による電気工事業が指定建設業に指定されたこととともに、同法第二十六条の規定による監理技術者講習会について

七・二・一六

### 九、『活線防護作業者資格』取得講習会について

七・二・一六

### 十、『活線工事士認定申請のための講習・試験』について

七・二・一六

### 十一、『メッセンジャー付引込線施工者資格』ならびに『活線防護作業者資格』取得講習会について

七・二・一六

### 十二、『北電引込線・計測器施工会社認定更新について』

七・二・一六

### 十三、『電気工事技術セミナー』の開催について

七・二・一六

### 十四、『事業委員会事項』

七・二・一六

### 十五、『大同生命団体保険の配当について』

七・二・一六

### 十六、『組合脱退申込みについて』

七・二・一六

### 十七、『平野電気工業所(中渡島支部) 平野金之助・平野洋一』承認

七・二・一六

### 十八、『定期健康診断の実施について』

七・二・一六

### 十九、『組合永年勤続者表彰式・新年会収支決算について』

七・二・一六

### 二十、『平野電気工業所(赤川支部) 大倉直・大倉伸夫』承認

七・二・一六

### 二十一、『理事長の専任について』

七・二・一六

### 二十二、『理事欠員の措置について』

七・二・一六

- 故大倉理事長の組合葬費用の支出について  
故大倉理事長の慰労金について  
電気保安功労者の表彰推せんについて  
組合員に対する処置  
組合新加入申込みの審査について  
組合脱退の申込みについて  
譲渡・譲受による加入申込みについて  
・日栄電気㈱－日栄電気 〃承認  
五、技術委員会事項  
第一種電気工事士定期講習について  
引込線工事士認定講習・試験について  
メセンジャ付引込線作業者資格講習会について  
北電引込線・計測器工事施工会社認定更新について  
高圧受電における高調波発生機器明細の記入要領説明会について  
計測器類の受払業務実績について  
事業委員会事項  
国民年金基金加入状況について  
住宅電気保修センター実績について

### 第一回役員会

一、慶弔報告  
(有)工藤電気工業代表者逝去  
江坂電気商会代表者病氣入院  
前田電気商会代表者病氣入院  
山田電気商会代表者病氣入院

一  
慶弔報告

### 三、各支部報告並提案事項

江差支部Ⅱ内線連絡協議会を開催、北電から補助ロープの使用方法、竣工調査報告要領について指摘された。  
このほか北支部、中渡島支部、東支部、八雲支部、北松山ブロック・森ブロックが会議を開催した。

- 四、総務委員会事項  
主任電気工事士研修会について  
修について  
役員の担当業務について  
平成七年度通常総代会について  
平成六年度事業報告について  
平成六年度財産目録、貸借対照表、損益計算書について  
平成六年度事業計画案(案)ならびに収支予算案(案)について  
平成七年度事業計画案(案)ならびに収支予算案(案)について  
組合新加入申込みについて  
定款の一部変更について  
組合新加入申込みについて  
譲受・譲渡による加入申込みについて  
・牧電気工事 牧勝彦－牧英博(承認)  
国民年金基金の加入拡大について

- 電気保安功労者の表彰推薦について  
定期健康診断の実施について  
平成七年度建設業経理事務士三級・四級特別研修について  
主任電気工事士研修会について  
修について  
役員の担当業務について  
平成七年度通常総代会について  
平成六年度事業報告について  
平成六年度財産目録、貸借対照表、損益計算書について  
平成六年度事業計画案(案)ならびに収支予算案(案)について  
平成七年度事業計画案(案)ならびに収支予算案(案)について  
組合新加入申込みについて  
定款の一部変更について  
組合新加入申込みについて  
譲受・譲渡による加入申込みについて  
・牧電気工事 牧勝彦－牧英博(承認)  
国民年金基金の加入拡大について

### 六、事業委員会事項

引込線工事士認定講習・試験について  
メセンジャ付引込線工事の認定について

### 六、事業委員会事項

第三者損害賠償制度の改定について  
函館住宅電気保修センターの拡大について

### 五、技術委員会事項

引込線工事士認定講習・試験について  
メセンジャ付引込線工事の認定について

### 六、事業委員会事項

第三者損害賠償制度の改定について  
函館住宅電気保修センターの拡大について

## 組合員の消息

一、三月上旬 江坂電気商会代表江坂啓一殿病氣入院

(六月上旬退院)

一、三月中旬 前田電気商会代表前田平治殿病氣入院

(五月上旬退院)

一、三月下旬 山田電気商会代表山田広勝殿病氣入院

(五月上旬退院)

一、四月中旬 (株)平井電気代表取締役平井行衛殿病氣入院

(六月上旬退院)

一、五月上旬 (有)吉岡電気工業所代表取締役吉岡成彰殿病氣入院

和典殿ご逝去

## 組合員の異動

II組織・代表者・住所の変更 II  
(新)  
(日)

一、大倉電気㈱ (赤川支部)  
代表取締役 大倉 直 代表取締役 大倉伸夫

一、日栄電気㈱ (中渡島支部) 日栄電気  
代表者 牧 勝彦 代表者 牧 英博

一、牧電気工事 (赤川支部)  
代表取締役 工藤光子 代表取締役 工藤和典

一、あまや電気工事 (赤川支部)  
代表取締役 工藤光子 代表取締役 工藤和典

一、函館市陣川町  
函館市上野町三一四四

一、函館市陣川町  
函館市上野町三一四〇

電話 一一〇一一四〇  
一一〇一一四二〇三



## 組合行事

2月7日	臨時役員会
10日	故大倉理事長大倉電気株との合同葬
13日	八雲支部森ブロック冬季安全大会
16日	第九回役員会
17日	八雲支部森ブロック冬季安全大会
22日	函館地区団体事務長会研修会に坂本事務局長出席
24日	道工業組合通常総代会に三副理事長ほか理事等九名が出席
27日	福島支部会議
3月4日	江差支部会議
7日	第一種電気工事士定期講習会（於拓銀ビル） II受講者一三六名
8日	中央支部会議
10日	第十回役員会
13日	東支部会議
14日	いなづま編集会議
15日	北電引込線工事士認定講習・試験（受講・受験者四二名）
17日	中渡島支部会議
全日	メセンジャ付引込線工事講習会（於組合会議室） II受講者七名
23日	赤川支部会議
全日	主任電気工事士研修会（於拓銀ビル）II受講者一四二名）
24日	PL保険制度説明会に佐藤事務局次長出席 （於拓銀ビル） II受講者三〇名）
28日	青年部役員会
29日	北支部会議兼懇親会（於河畔亭）

# 第47回通常総代会

## 開催される

平成七年度通常総代会が、去る五月二十九日組合会館大會議室において、総代定数八十一名中七十六名（うち委任状出席者二十四名）が出席して開催された。定刻の午後二時、去る二月六日逝去された故大倉伸夫前理事長のご冥福を祈って黙禱を捧げたあと、坂本事務局長より本日の総代会は出席者数が法定数を満たしているので、有効に成立した旨の開催宣言がされた。次いで挨拶にたつた吉田理事長は、

北海道電気工事業協同組合連合会の『リーダー』でもあった大倉氏の永年にわたること尽力のお陰で、北電の工事工量単価の引上げのほか連合会からの各種事業に対する助成ならびに組合員の協力により所期の事業計画を着実に実施することができた。

財務面においても、期首当初の予算を大きく上廻った収入もあり、支出面での適正なる運用の結果前期を上廻る利用分量配当も出来ることとなつた。又、事業運営の面においても、総務・技術・事業と三委員会の所管で予定されたすべての事業を消化することができ組合員のご協力ご支援に対し感謝申し上げる。

本年度は厳しい情勢の中、予算作成については、前年度に比べて収入微増、支出削減という厳しい編成でのぞみ、最大の努力をもって故前理事長の功績と遺志

31日 道工業組合事務局長会議に坂本事務局長出席（於北海道電気会館）

4月11日 函館住宅電気保修センター説明会

13日 定期健康診断（受診者二六五名）

25日 第一回役員会

27日 全日

第一回北工連絡会

ビューホテル

26日 赤川支部会議

会計期末監査

28日 全日

道工業組合役員会に吉田理事長、佐藤副理事長出席（於北海道電気会館）

29日 全日

北海道電気保安協会函館支部新築工事地鎮祭に吉田理事長出席

31日 全日

八雲支部総会（於森町濁川）

26日 全日

技術委員会

## 新加入組合員の紹介

平成七年度新加入の二名の方を  
ご紹介いたします。

(加入年月日 || 平成七年四月一日)



川村 電 気  
川 村 幸 二

大久保電気㈱を経て、平成六年十月独立開業

(有)北日本産業

須 田 健 一

昭和二十九年四月十四日生

函館市昭和四丁目一〇一—〇

電話 四三一九五二七

協信電気工業㈱、(有)車谷電気工業所を経て、昭和六十年四月独立開業

を継ぎ、新たなる組合員の一層の団結と前進を図りました。

と述べた。

統いて正副議長の選出では、事務局一任との発言により議長に工藤雅史氏（㈱工藤電気商会）副議長に矢本里美氏（㈲里見電気工事）を指名推薦で選出、議事の審議に入った。

### 第一号議案

平成六年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案について承認を求める件

坂本事務局長より逐一説明、林監事より会計監査報告がされた後、工藤議長質問を求めたがなく、承認された。

### 第二号議案

平成七年度事業計画案ならびに收支予算案について承認を求める件

坂本事務局長より逐一説明、工藤議長質問を求めたがなく承認された。



### 第三号議案

定款の一部変更について

坂本事務局長より、各支部の組合員数に増減が生じ、結果赤川支部が一名の増計八十二名の定数となるので、定款を変更したい旨説明、工藤議長質問を求めたが全員異議なく承認された。

以上、第一号議案から第三号議案まですべて承認可決され、午後三時五分坂本事務局長閉会を宣した。

## 新規学校卒業者の 求人はお早めに!

平成八年三月の新規学校卒業者（高校）の求人は、

六月二十日から受理を開始いたします。

新卒者の多くは地元での就職を希望していますが、例年地元企業から求人申込みが遅いため、せっかくの若い人材が地元を離れて就職しております。企業を活性化させる若年労働力の確保のため、採用予定のある企業は計画を立て、早目に求人申込みをされるようお願いいたします。

安定所に求人申込みをされないと、学校からの推薦は行ないませんので、必ず安定所へお申込みください。日程等は次のとおりです。

●

新規高等学校卒業者にかかる選考開始期日等

- ① 求人受理開始 六月二〇日
- ② 求人票の返戻 七月一日以降
- ③ 受理求人の学校への提示 七月一日以降
- ④ 推薦開始 九月五日
- ⑤ 選考開始 九月一六日
- ⑥ 採用内定開始 詳細につきましては、ハローワーク函館（函館公共職業安定所）へ、お尋ねください。

（担当：労働課 ○一三八一二六一〇七三五 内線四三三）



監査報告

設立以来十二周年を迎えた組合青年部の平成7年度通常総会が、去る四月二十五日函館ハーバービューホテルを会場とし、組合から吉田理事長、佐藤・西岡・酒井三副理事長、事務局長・次長を来賓に迎え、会員四十五名中三十四名（うち委任状出席者十三名）及び新入会員五名の計三十九名が出席して開催された。

はじめに、玉津部長が挨拶に立ち、『一年間の事業を振り返り、青年部員各位の協力がなくしては事業展開はできなかつた。今後も一致団結してより一層の発展を目指して頑張ろう』と述べた。

続いて、議長に嶋田氏（㈱東栄電気工業）を選出して議事の審議に入った。

第一号議案 平成6年度事業報告、収支決算報告及び

## 第12回青年部 通常総会開催

第二号議案 平成7年度事業計画(案)及び収支予算(案)を審議し、いづれも異議なく承認された。  
第三号議案 任期満了による役員改選

議長から意見を求めたところ、部長一任とのことで玉津部長から部長、副部長、理事、監事についてそれぞれ指名推薦（新役員名）（後述）して承認を求めたところ、全員異議なく賛成された。

新入会員五名の入会も異議なく認められ、青年部の活性化に大いに役立つものと期待される。

総会の終了後、来賓の吉田理事長から挨拶をいただき、O.B.の方々も同席して懇親会に移つた。

工藤新部長の挨拶に次いで新役員が各自自己紹介をし新たな第一歩を誓いつた。

本年度年令規定により満期退会される秋山勇二（㈱ケイソー）、鈴木勝美（鈴木電気工業所）、平山冠三（樺電工業㈱）三氏および新加入会員からも挨拶をいただき、和気藹々のうちに懇談のひと時をすごし盛会



## 中国文化のルーツ 日本文化のルーツ（十四）

### 平沼経子

臨済宗の開祖『榮西』が宋から茶種を持ち帰り、宇治

に於て栽培したとある。茶道のはじまりは室町時代、村田珠光を祖とし武野紹鷗を経て千利休宗易に至つて大成今日につづいている。その後利休の孫宗旦の後三家に分れ、宗旦の三男宗左の後を『表千家』四男宗室の後を『裏千家』といい、次男の宗守は別に『千家武者小路流』と称したとの事である。

日本では始め茶は薬と同様に珍重され、庶民の口には入らなかつた。利休の思想が華美をきらつたが、現

平成7年度青年部役員

副部長 大倉直

（㈱）工藤電気商会

理事（会計） 伊東照勝

（㈲）丸伊イトウ電気商会

監事 矢本里美

（㈲）里見電気工事

副部長 若狭正

（㈱）若狭電気

相談役 吉田郁也

（㈱）三興電気

監事 小林雅人

（㈱）北電工

監事 松本剛

（函館電設㈱）

監事 加藤敏政

（㈱）ケイソ

新入会員 石川修

（㈱）新営電気設備

新入会員 西谷晃

（協同電気通信㈱）

裡に終了した。

在の『お茶会』などは利休の意図に反して若い娘達の和服の見せ場の華麗さがある。

現在茶は五十三ヶ国で栽培されている由、だが種はすべて中国からのものとの事である。千二百年前の『茶經』という本の中に『茶とは南方の嘉木のことなり』とあり、当時、四川省の南部に「抱えもある茶の大木」があったことが記されている。

昔、黄山に『猴魁』<sup>こうけい</sup>という名茶があつた。『猴一大猿』『魁一頭領』猴魁とは飼いならした猿が、人間の行けない断崖絶壁によじ登って摘んだ野生の茶で作つたものだと伝えられている。中国では野生のお茶は江南の雲南、貴州、四川、江西、福建、廣東、廣西など多くの地域に昔から広く分布している。とくに多いのは雲南省で、高さ七一八メートルから二一三十メートルにも及び、幹が二抱以上、直径二メートル近いものがある由、雲南省南西のシーサンパンナには樹令千七百余年の『茶樹の王』があり、天然記念物として保護されているとの事、今日、四川省南部の『金仏山』には一面茶の大木が野生しているという。

一九八六年、中国農業科学院茶葉研究所が地元の関係部門と共に雲南省の茶の木について調査をしたところ、まだ世界の茶譜に記入されていない新種を十七、変種一つを発見した。中国の植物分類学者の『張宏達』教授の新分類法によれば、現在、世界における茶の木は四十余種、そのうち中国に三十九種あり、三十三種が雲南省にあるという結果である。

以上の事から茶の故郷は中国雲南省なりと声をあげたら異議を出された。それは一八二四年のことで、あるイギリス人がインドのアッサム地方で野生の茶の大木を発見し、茶の現産地は中国でなくインドであるとの見解を発表した。世界的の学術界でも、一部の人はその見方に賛成している。たしかに野生の茶の木は中国のみでなく、インドにもあり、南アジアの国々にもあるかも知れないが、茶の故郷は中国だと言うにはそれなりの理由があり、茶に関する重要な研究課題として広く学者の興味を引いている。

中国の科学者は、近年茶の染色体の核型と成分の『カテキン』の研究に基づいて分類、比較を行い、新しい観点を提起した。

茶の木にはみな染色体があり、その染色体の数は三十本。交雑（遺伝的）に違った形質を持つ個体の交配実験では、茶の木はみな互いに相当の近縁関係にあるが、染色体の核型には差異があり、核型進化の一般的法則によってそれぞれの茶の木の進化段階を確定することが出来る事が明らかにされている。

そこでもっとも古いのは、四川省金仏山の野生の大葉であり、その次は雲南省双江、同省慶豐と台湾、インドのアッサム、海南島、ベトナムの大葉茶という順であることが判明した。

茶の木は皆カテキンを含んでいる。種が発芽すると生き、幼苗の生長につれて、簡単な組成のカテキンから次第に複雑なカテキンに合成される。つまり、簡単な組成のカテキンを多く含んだ茶の木は、比較的原始的な類型であるが、そうでないものは進化した類型に属し、研究の結果雲南に野生する大葉茶は簡単な組成のカテキンの含有量が最も多く、インド・アッサムの大葉茶、雲南の栽培大葉茶がこれにつき、一般に栽培されている大葉茶がその次という事が明らかになった。

この二つの研究結果は完全に符合することから、四川省西南部も含めて雲南省西南部は、世界における茶の木の『起源の地』という事が出来る。しかし、これは現在の結論で未來の研究で新しい発見があるかも知れないと郭伯南氏はいう。

茶が中国文明的一大特徴となつたのは中国が茶の原産地だからと言うわけではなく、インドでも野生の茶の大木があつたのに、自國の茶の文化を育てず一七八〇年になって、ようやく中国の廣州から茶の種を輸入して栽培を始めた。中国が茶の故郷となつたのは、主として中華民族の先住民が一番早く茶の効用を知った事であり、長い年月の中で次第にけんらんたる茶の文化を形成したからである。

中国で最初に茶を飲み始めたのは何時、そして何處であつたか。喫茶の風習は広大な地域では一定の時期に一定の土地で始まつたとは考えられない。茶の文化は長い才月中で多くの人々の実践を経て逐次形成されて来たものであり、各地それに歴史がある。中すでに蜀の地にあつた。前漢時代書かれた『方言』には『蜀の人は茶を葭萌と呼ぶ』とある。二千年前の四川方言では茶を葭萌と呼んでいた。『漢志』の記載では最も早く茶を飲み始めたのは、長江上流の『巴蜀』（四川省）だとされている。茶の古称は先秦のころは『蜀の人は茶を葭萌と呼ぶ』とある。二千年前の四川方言では茶を葭萌と呼んでいた。『漢志』の記載では前漢の始め四川では『葭萌縣』という地があつた。この地をなぜ『葭萌縣』と呼ばれるようになったのか。蜀の末代の王に『葭萌』といふ弟がいた。彼は漢中に封ぜられて、号を『苴侯』といった。そこで苴侯のいた城は『葭萌』と呼ばれた。この地名は四川省北部、劍閣の南に現在も残っている。

蜀史については、蜀王の名と号は往々にしてその業績と関係があるといわれているが、茶を名としたこの葭萌が中国で初めて茶を飲んだ人であるのかどうか、それはさておき、その名が記されていることからも紀元前三一六年以前に、蜀の国にすでに茶の呼び名があつたことがわかる。巴蜀を滅ぼした秦は巴蜀の物産の中に茶のあることを知っていたと思われるが史書にその記載がない。前漢のころ、蜀の人『司馬相如』はその著『風賦篇』で二十一種類の漢方薬に触れているが茶はその中の一つ、このことからも前漢の初め、蜀の人は茶をくすりと見ていたことが知られる。

しかし司馬相如よりや後の詩人、『王褒賦』はその名著『僮約』の中で『茶を入れるには茶器をそろえる』『武陽で茶を買う』などとはつきり書いている。およそ前漢末期、蜀の地では茶を飲む事を知っていたばかりか、茶の市場もあったと思われる。今の四川省成都の南、彭山県の双江鎮（武陽鎮）には、中国史上最初の茶の市場があつた。

前漢初期、蜀の地には『葭萌縣』があつただけでな

く、長沙国の屈下に『茶陵県』といつものもあつた。『茶陵図經』の解釈によれば、茶陵の名は『陵谷に茶茗が生えている』からだというのである。ある本にはその地理的位置が『茶山の陰にあるところからこの名がついた』と書かれている。また当時の湖南省には茶の生産で名を知られた県もあつた。このことから當時茶の栽培、販売、飲用を知っていたのである。

もし、雲南省四川省南部が茶の原産地だとすれば二千年前の前漢初期、すでに茶の木は北へ広まり、長江上流の両岸をまたぎ、中流の南岸に及んでいたものと思われる。

西晋のころ、茶の木は岷江流域に広まつていた。杜育の書いた『荅賦』(荅の字の意味は老いた茶の葉)(賦は早春賦など詩を吟すること)には、当時、岷江流域の茶の木は『谷を埋め丘をおおうほど』になり、初秋のころ、満山茶摘みの農民が群れをなしていたと、にぎやかな風景がかかれている。

同じ頃成都では老婆達が露店で茶粥を売りはじめた。当時、露店のお茶屋は勿論、茶店もあり、晋の『張孟陽』は成都で『登成都白菟樓詩』といふ詩を詠み、『芳茶冠六清、滋味播九区』と称えている。水、漿(酒)の一種、米酒など六つの飲料のうち、茶は最もかぐわしい、蜀の茶の香りは國中に漂つてゐるという意味である。『葭萌から芳茶』のほまれまで、先秦から西晋まで、蜀の喫茶の風習は空前の盛況を呈した。

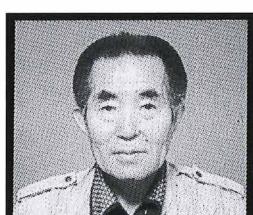
三国時代『南中の茶』はすでに名産として全国的に名を売つてゐたが、長江下流の東吳ではまだ茶は君主の宴会用の高級な飲み物として使用されていた。史書によれば吳の君主『孫皓』はいつも終日宴会を催し、その決まりでは宴会に出る者は皆酒七升を飲まなければならぬとなつてゐた。しかし、徳望のある宰相『韋曜』はあまり酒が飲めない。そこで孫皓はこつそり酒の替りに茶を賜つたという古事がある。ところで孫皓の使用した茶はどこ産であつたか、『吳興記』には吳興郡所在地・烏程県(現在の浙江省湖州市)の西に『温山があり、御茶を産する』とある。吳興郡は孫皓

在位の三年目、つまり二六六年に設けられたもので、そこで産した御用茶は、多分吳の君王孫皓並びにその一族に供されたものであろうと思う。

このようにして見て來ると、三国時代の前後には東吳一帯ではすでに茶が飲まれておらず、浙江省北部でも茶の栽培がすでに始まつてゐる。そこから半世紀ほど経つた東晋初期に次のような話がある。

茶の大好きな『王濛』という人がいた。客が来ると必ず茶でもなす。當時、大ていの人は茶を飲みなれていないので渋くてたまらない。しかし、主人の顔を立てる為に飲まないわけにゆかず大変困つた。そこで王濛を訪れる客達は『今日は又『水厄』に遭うぞ』と話した。つまり渋い茶を飲まされるとボヤいた。茶は『芳茶』という名と共に『水厄』という汚名をつけられたという事である。この話は成都では茶がすでに芳茶と称して香りは國中に漂うと称えられていたのに数十年後、建康(今の南京)では普通の官吏が茶を飲むことを苦痛に感じていたという事を物語つてゐる。しかし、この頃茶はもう宮廷の御用品でなくなり、司徒長史、王濛のような高級官吏も常に茶をたしなむようになつてゐた。

『水厄』の話から半世紀余りたつて南朝初期、宋の女流文学家『鮑令暉』はその著『香茗賦』の中で、もう茶の苦さを言わず香りを賞している。張孟陽が成都で茶の美味を称えてから鮑令暉が建康で茶の香りを始めたところ迄、つまり長江上流から下流へ喫茶の風習が広まるには約一世紀半の過程があつたことがわかる。『香茗賦』が世に出てから半世紀あまり経て南朝の肅帝(至つて齊(國の名))の武帝は遺詔に、『吾が死後、祭祀は簡略にすべし、いけにえは使うな、飯と茶のみを供えればよい』と述べ、また『貴賤を問わずみなこの制にならうべし』という詔勅を下したと言われている。このことからも、當時喫茶は貴賤の別なく、普辺的な風習であつたことがわかる。



(有)工藤電気工業代表取締役  
工藤和典氏は、去る三月二十日乙部町字栄浜で生まれ、昭和十九年三月乙部町立栄浜尋常高等小学校高等科を卒業しました。

昭和二十年五月に川北弘電社に入社、その後昭和二十五年五月に江差町の共栄電気工業(株)に入社し、ひたすら電気工事技術者としての職責を全うして参りましたが、昭和三十七年四月に実父の経営する工藤電気工業所に責任者として入社しました。以来、電気工事士免状、職業訓練指導員免許を取得する等研鑽と努力を重ね、実父の片腕として活躍されました。

昭和四十九年四月には実父から営業権を譲り受け、その優秀で良心的な技術をもつて着実に業績を伸ばし平成二年十一月には(有)工藤電気工業と組織を固め、業界ならびに地域の発展に寄与されました。

最近体調をくずし入院されたこともあつたと後日知らせましたが、あの笑顔とお元気なお声で組合に来られると思って居りましたのに、突然の訃報は私達一同ただ驚きと哀惜の念に堪えなればかりであります。然しながら、あなたの残された業績は不滅の道しるべとなり、私達を激励し業界の一層の発展となり、残されたご遺族、社員の皆様もあなたの意志を継いで社会の発展に努力されることを信ずるものであります。

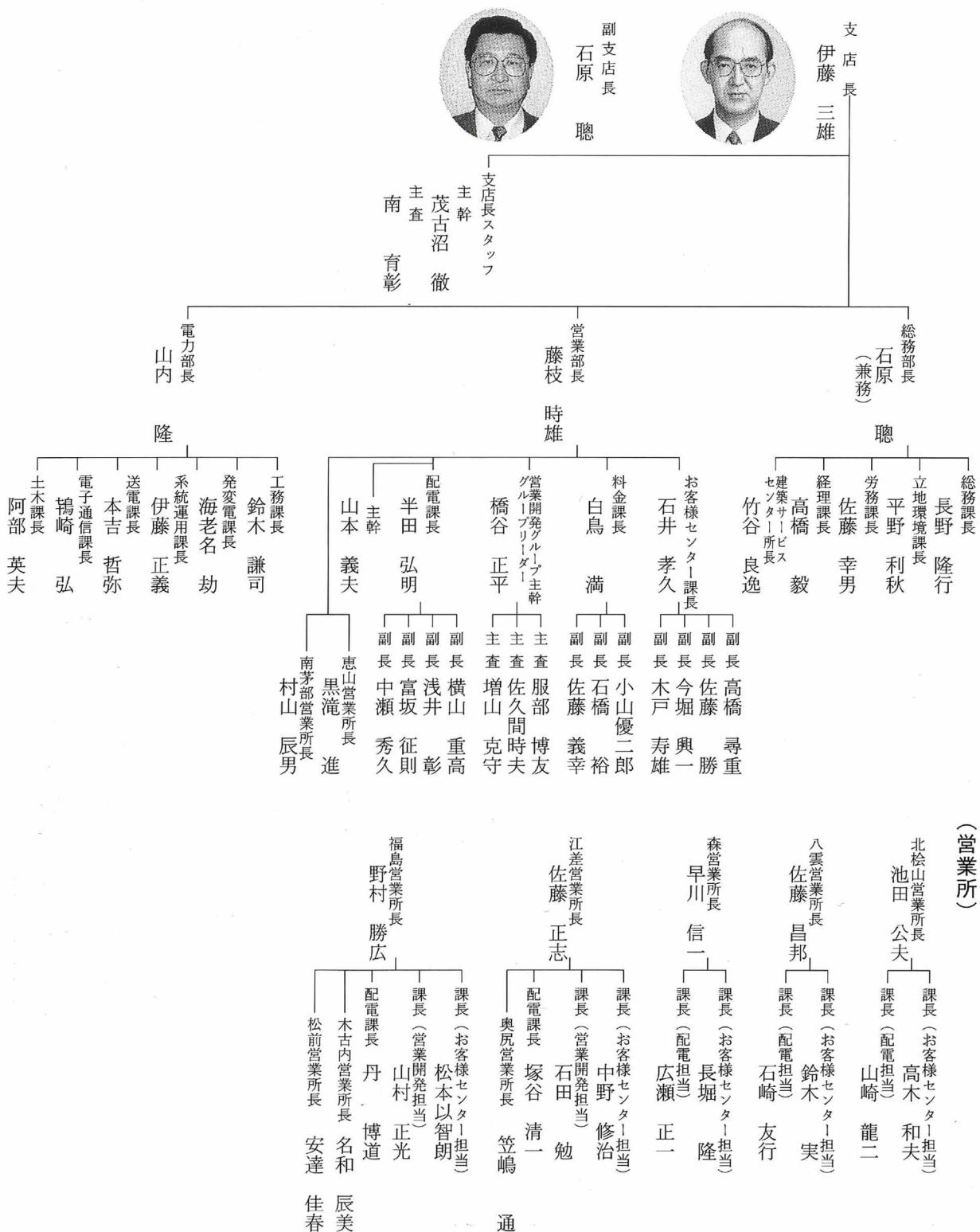
工藤さん、どうか安らかにお眠りください。  
故人の生前の功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りして追悼の記いたします。

## 追悼記

合掌

## 北海道電力(株)函館支店組織図

平成 7 年 6 月 1 日



次代の変化にこたえる感性  
綜合販社

## 東芝E&S北海道株式会社

函館支店

040 函館市大繩町二十二番十四号  
電話 四一一二二四一

A&I

快適を科学します

松下电工株式会社

函館出張所

041 函館市西桔梗町五八九番地一〇七  
電話 四九一五二〇五七

工事材料・電化製品

丸晃電気株式会社

041 函館市西桔梗町五八九一四三九  
電話 四九一三一三一三九

電気設備機器資材の綜合卸商社

大興電機株式会社

本社 041  
セ本通外品 041  
セ本通外品 041  
31

電山電函電函  
電話 越話 館話 市西桔梗町五八九一四三九  
〇二八三云六町五内一丁九一浦一目一六二六二一  
三内一丁九一浦一目一六二六二一  
二一一四二一六〇四一一〇九七九七一七

電設資材・機電綜合卸

## 進和電機株式会社

040 函館市松川町三四一三  
電話 四二一六二三一

未来環境を語る・造る

株式会社

函館三営業所

041

函館市富岡町二丁目四一  
電話 四三一三〇一  
札幌・営業所  
釧路、苦小牧

電気工事機器  
音響通信機器  
総合商社

石垣電材

函館営業所

函館営業所  
○函館○苦小牧  
○館○牧○市  
一市一市一中央  
三中四新一区  
八中四中一区  
一島一野二北  
五町三町二条  
五町四一二条  
十六丁一四  
四四四目九三  
二二三番二目  
二二五番一一番  
(代)号(代)地

松下電工(株)  
日立電線(株)  
特約店

北進商事株式会社

040

F電函  
A 館市  
X 話的場  
五五五十九  
五五五十一  
三二二番  
七二二十一  
四〇二一五号